

《被表彰者の概要》〔6件：図書室1件、幼稚園1件、学校3件、団体（個人）1件〕
 〈図書館・公民館図書室〉

被表彰者名	伊仙町中央公民館図書室
功績内容	1 概要 (1) 職員数4人（司書2人） (2) 蔵書数に占める児童用図書の割合 44.2%（県 37.0%） (3) 全図書購入冊数に占める児童書の割合 60.9% 2 特色ある取組 (1) 移動図書館車で月1回、町内全ての幼稚園、こども園、保育園、小学校、中学校と3つの集落をコース巡回し、日常生活の中に本のある暮らしを提供している。 (2) 来館が困難な利用者へのサービスとして、高齢者等の自宅訪問を行っている。 (3) 平成23年度からブックスタートを開始し、乳児期からの読書推進に取り組んでいる。乳児検診（3～4か月）時に、絵本を1冊プレゼントし、その際に図書室の魅力や利便性等について来館者に丁寧に伝え、周知に努めている。 (4) 子どもたちを集め、読み聞かせやパネルシアター等、おはなし会を開催し、来館者の増加につなげている。

〈学校・園〉

被表彰者名	薩摩川内市立里幼稚園
功績内容	1 概要 園児数14人、職員数6人 2 特色ある取組 (1) 園児14人に対し、1,274冊の蔵書があり、園児の手に取りやすさを工夫するなど、自由に読むことができるようにしている。 (2) 朝・帰りの会や預かり保育で、絵本や紙芝居の時間を設定している。午前・午後の園活動では、ブックトークや読み聞かせを行っている。 (3) 保護者による読み聞かせのほか、里小学校司書補による読み聞かせを月2回行っており、幼小連携を意識した読書活動に取り組んでいる。また、校区の公立図書館の利用も積極的に行っている。 (4) 読書に関する「小学校就学までに幼稚園で身に付けたいこと」、「家庭で身に付けてほしいこと」を設定し、家庭と連携した取組を行っている。 (5) 発達に即した絵本を玄関で紹介するなど、園児だけではなく保護者にとっても読書に親しむことができる環境設営を行っている。

被表彰者名	出水市立野田小学校
功績内容	1 概要 (1) 児童数 169 人 10 学級 職員数 20 人 (2) 学校図書館の蔵書数 8,654 冊（蔵書率 123.6%） 2 特色ある取組 (1) 一人年平均 150.0 冊読書。学校目標（低学年：120 冊，中学年 100 冊，高学年 80 冊）の数値を上回っている。 (2) 家庭や地域との連携が充実している。地域ボランティアグループによる読み聞かせは、平成 19 年から継続しており、今年度は、月 2 回、朝読書の時間に実施している。また、毎月 23 日は「野田っ子読書の日」に取り組み、親子読書の感想等を図書便りで紹介したり、保護者からの意見を集約して取組の改善を図ったりしている。児童の 1 人 1 台端末から学校図書館の本を検索、予約できる「蔵書検索サイト」を設定し、親子で利用できるようにしている。 (3) 読書意欲を喚起する取組が充実している。年 2 回の読書月間は、図書委員会を中心とした楽しいイベントだけでなく、中学校と連携を図った小中合同読書交流会を行っている。「野田小中学校共通体験」を夏休み中に企画したり、児童の作品を野田図書館に展示したりするなど、積極的に中学校や公立図書館との連携を図っている。

被表彰者名	出水市立江内中学校
功績内容	1 概要 (1) 生徒数 47 人 5 学級 職員数 12 人 (2) 学校図書館の蔵書数 6,078 冊（蔵書率 90.4%） 2 特色ある取組 (1) 一人年平均 42.2 冊読書。学校目標の数値（40 冊）を上回っている。 (2) 家庭や地域との連携が充実している。毎月第 3 週は「家読（うちどく）週間」として親子読書に取り組み、平成 27 年から使用している「家読カード」に感想等を記入し交流を深めている。図書館には、家読キャラクターや家読図書コーナーを常設し、保護者や地域の方が集まる機会に、図書館開放を周知したり、本の紹介を行ったりしている。 (3) 読書意欲を喚起する取組が充実している。週 4 回、全校生徒と全教職員で朝読書に取り組み、教室や図書館で本を読む機会を設定している。また、令和 3 年度から小学生との読書交流を行っており、読み聞かせや図書館内散策の機会を設定している。また、全校生徒と全教職員による「おすすめの本の紹介カード」を作成し、図書館に掲示したり、多様な表現活動（ビブリオバトル、本の POP 作成、読書標語・短作文等）に取り組んだりしている。

被表彰者名	錦江湾高等学校
功績内容	1 概要 (1) 生徒数 480 人 12 学級 職員数 46 人 (2) 学校図書館の蔵書数 20,473 冊 年間利用平均冊数 6.3 冊 2 特色ある取組 (1) 朝読書の時間に司書が朗読やブックトークを行い、読書への興味関心の喚起、読書意欲の向上を図っている。 (2) 知識を広げ、進路に役立つ読書の機会を持たせることを目的に「新書を読む月刊」を設定している。趣旨の説明、新書の選び方や紹介を行い、全校生徒で新書の読書を実施し、生徒の実態に応じた読書活動を推進している。 (3) 生徒会図書部による図書だよりの作成と発行、各学年（教委室棟）の廊下での「出張まほら館」での本の貸し出し、文化祭で栞づくりや本を使ったビンゴゲームやクイズ、ビブリオバトルの開催など、高校生の視点に立った読書活動への関心を高めるための、生徒主体の取組や活動が充実している。

〈団体（個人）〉

被表彰者名	読書ボランティアグループ虹色のゆめ（出水市）
功績内容	1 概要 会員数 11 人、活動年数 25 年 2 特色ある取組 (1) 高尾野図書館を中心に、幼稚園、学校、保健センター等で活動を実施している。 (2) 江内小学校で平成 25 年から「朝活動」として、月 2 回絵本や紙芝居などの読み語りを実施している。読書旬間（10 月）では、鹿児島の方言週間にあわせ、出水の昔話の大型紙芝居を披露している。 (3) 「ブックスタート事業」や「セカンドブック事業」、出前読み聞かせ会「おはなし玉手箱」事業など、市と連携し、市の事業でも活動を行っている。 (4) 読み聞かせ会では、会員の特技を生かして多様な手法を取り入れ、他のボランティアグループと切磋琢磨する連携を生み、市のボランティアグループ全体の技術向上につなげている。また、研修会等においては、講話や実演等を積極的に引き受けている。